

岡山県感染症週報 2014 年 第 34 週 (8 月 18 日～8 月 24 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症 警報』発令中です。

◆2014 年 第 34 週 (8/18～8/24) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 32 週	5 類感染症	後天性免疫不全症候群	1 名 (50 代 男)
第 33 週	5 類感染症	後天性免疫不全症候群	1 名 (40 代 女)
第 34 週	2 類感染症	結核	3 名 (40 代 女 1 名、70 代 女 1 名、80 代 男 1 名)
	3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1 名 (O157: 幼児 男)
	4 類感染症	日本紅斑熱	1 名 (30 代 男)
	5 類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 名 (90 代 女)

■定点把握感染症発生状況

- ヘルパンギーナは、県全体で 61 名 (定点あたり 1.35 → 1.13 人) の報告があり、前週より減少しました。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 46 名 (定点あたり 0.43 → 0.85 人) の報告があり、前週より増加しました。

1. [腸管出血性大腸菌感染症](#)は、第 34 週に 1 名の報告があり、2014 年累計報告数は 55 名となりました。岡山県では、「[腸管出血性大腸菌感染症 警報](#)」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症 警報 発令中!](#)』をご覧ください。
2. [日本紅斑熱](#)は、第 34 週に 1 名の報告があり、2014 年累計報告数は 2 名となりました。第 33 週までの全国累計報告数は 101 名となっています。この感染症は、病原体 (日本紅斑熱リケッチア) を保有するマダニに咬まれることで感染し、春から初冬にかけて発生します。ダニが媒介する感染症は、日本紅斑熱の他に、重症熱性血小板減少症候群、つつが虫病などがあります。作業やレジャーなどで野山や草むらに入るときは、肌の露出を少なくするなど、ダニに咬まれないように注意しましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[「日本紅斑熱」に注意しましょう。](#)』及び『[ダニが媒介する感染症に注意しましょう。](#)』をご覧ください。
3. [ヘルパンギーナ](#)は、県全体で 61 名 (定点あたり 1.35 → 1.13 人) の報告があり、前週より減少しました。地域別では、備北地域 (3.25 人)、備中地域 (2.14 人)、真庭地域 (2.00 人) の順で患者報告数が多くなっています。ヘルパンギーナは、小児の急性ウイルス性咽頭炎であり、いわゆる夏かぜの代表的なものです。流行のピークは越えたと思われますが、この感染症は例年 8 月頃まで流行がみられます。うがいや手洗い、手指の消毒を励行するなど、感染予防に努めましょう。
4. [A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎](#)は、県全体で 46 名 (定点あたり 0.43 → 0.85 人) の報告があり、前週より増加しました。この感染症は、高熱・咽頭痛・嘔吐などが主な症状で、春から夏及び冬季の 2 つの時期に流行が見られます。現在、流行のピークは越えていますが、倉敷市 (1.18 → 2.09 人) 及び岡山市 (0.14 → 0.93 人) で定点あたり報告数が大きく増加しました。手洗い、うがいなど一般的な感染予防に努めましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ			RSウイルス感染症		
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★★
感染性胃腸炎		★★★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		★
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎		★	流行性角結膜炎		★★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)					

【記号の説明】 前週からの推移: : 2 倍以上の減少 : 1.1～2 倍未満の減少 : 1.1 未満の増減
 : 1.1～2 倍未満の増加 : 2 倍以上の増加

発生状況: 空白: 発生なし ★: 僅か ★★: 少し ★★★: やや多い ★★★★: 多い ★★★★★: 非常に多い
今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。
感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、平成 25 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

野山のダニに気をつけましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、大型のマダニや、小型のツツガムシなどが知られています。これらのダニの中には、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の他に、日本紅斑熱やつつが虫病などを引き起こす病原体を保有しているものもあります。

春から初冬にかけて、ダニ類の活動が活発になります。ダニに咬まれないための予防対策をしましょう。

【予防のポイント】

- ◎草むらなどに入るときには、腕・足・首など肌の露出を少なくしましょう。
 - ・首にはタオルを巻くか、ハイネックのシャツを着用。
 - ・シャツの袖口は軍手や手袋の中に。
 - ・ズボンの裾は、靴下に被せるか、長靴の中に。
- ◎服の上や肌の露出部分に、防虫剤を噴霧や塗布しましょう。
- ◎草の上に直接寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりしないようにしましょう。
- ◎野外活動後は、上着や作業着を家の中に持ち込まないようにしましょう。
- ◎脱いだ衣服は、すぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口を縛っておきましょう。
- ◎野外活動後は、すぐに入浴し、体をよく洗い、新しい服に着替えましょう。
入浴やシャワーの時には、マダニが肌に付いていないかチェックしてください。
マダニに咬まれても、痛みやかゆみは、ほとんど感じません。
- ◎ペットにもダニが付かないように、ダニ駆除剤などで予防しましょう。

【マダニに咬まれたら】

- ◎マダニが皮膚に付いていることに気がついた時
 - ・簡単にマダニが取れた・・・マダニを保存しておき、後日、症状が出た際、そのマダニを持って医療機関に行ってください。
 - ・マダニが取れない・・・無理に取らず、皮膚科等の医療機関で、適切な処置をしてもらってください。
- ◎その後、2週間程度は、体調の変化に注意してください。
- ◎発熱等の症状が認められた場合、速やかに医療機関を受診してください。
その時、野山や草むら、河川敷などに立ち入る機会があったことを伝えてください。

病 名	潜伏期間	症 状
S F T S	6日～2週間	発熱、倦怠感、食欲低下、消化器症状
日 本 紅 斑 熱	2～8日	発熱、発しん、刺し口、倦怠感等
つつが虫病	5～14日	発熱、発しん、刺し口、倦怠感等

[マダニに注意! ～野山に入る方へ（岡山県チラシ）](#)
[マダニ対策、今できること（国立感染症研究所）](#)

保健所別報告患者数 2014年 34週 (2014/08/18～2014/08/24)

2014年8月27日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
RSウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	20	0.37	6	0.43	—	—	—	—	2	0.29	—	—	—	—	12	2.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	46	0.85	13	0.93	23	2.09	4	0.40	—	—	—	—	—	—	6	1.00
感染性胃腸炎	289	5.35	82	5.86	61	5.55	51	5.10	22	3.14	26	6.50	6	3.00	41	6.83
水痘	27	0.50	10	0.71	6	0.55	3	0.30	5	0.71	—	—	1	0.50	2	0.33
手足口病	19	0.35	2	0.14	11	1.00	3	0.30	—	—	2	0.50	—	—	1	0.17
伝染性紅斑	1	0.02	—	—	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	25	0.46	12	0.86	5	0.45	3	0.30	2	0.29	3	0.75	—	—	—	—
百日咳	1	0.02	—	—	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	61	1.13	15	1.07	8	0.73	2	0.20	15	2.14	13	3.25	4	2.00	4	0.67
流行性耳下腺炎	6	0.11	1	0.07	1	0.09	1	0.10	1	0.14	—	—	—	—	2	0.33
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	10	0.83	7	1.40	3	0.75	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2014年 34週 (2014/08/18～2014/08/24)

2014年8月27日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	20	0.37	6	0.43	—	—	—	—	2	0.29	—	—	—	—	12	2.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	46	0.85	13	0.93	23	2.09	4	0.40	—	—	—	—	—	—	6	1.00
感染性胃腸炎	289	5.35	82	5.86	61	5.55	51	5.10	22	3.14	26	6.50	6	3.00	41	6.83
水痘	27	0.50	10	0.71	6	0.55	3	0.30	5	0.71	—	—	1	0.50	2	0.33
手足口病	19	0.35	2	0.14	11	1.00	3	0.30	—	—	2	0.50	—	—	1	0.17
伝染性紅斑	1	0.02	—	—	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	1	0.02	—	—	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	61	1.13	15	1.07	8	0.73	2	0.20	15	2.14	13	3.25	4	2.00	4	0.67
流行性耳下腺炎	6	0.11	1	0.07	1	0.09	1	0.10	1	0.14	—	—	—	—	2	0.33
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	10	0.83	7	1.40	3	0.75	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2014年 第34週 2014/08/18～2014/08/24)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	20	-	1	6	3	1	3	2	1	1	-	-	2	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	46	-	-	-	5	6	7	4	7	5	-	3	5	-
感染性胃腸炎	289	7	35	54	28	20	18	13	11	15	7	9	22	10
水痘	27	-	-	2	4	8	4	3	2	3	1	-	-	-
手足口病	19	-	1	10	2	3	-	-	2	-	-	-	-	1
伝染性紅斑	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	25	1	7	14	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	61	-	8	23	8	9	7	2	1	1	-	-	1	-
流行性耳下腺炎	6	-	-	1	-	-	1	-	-	2	-	1	1	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
流行性角結膜炎	10	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	4	4	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

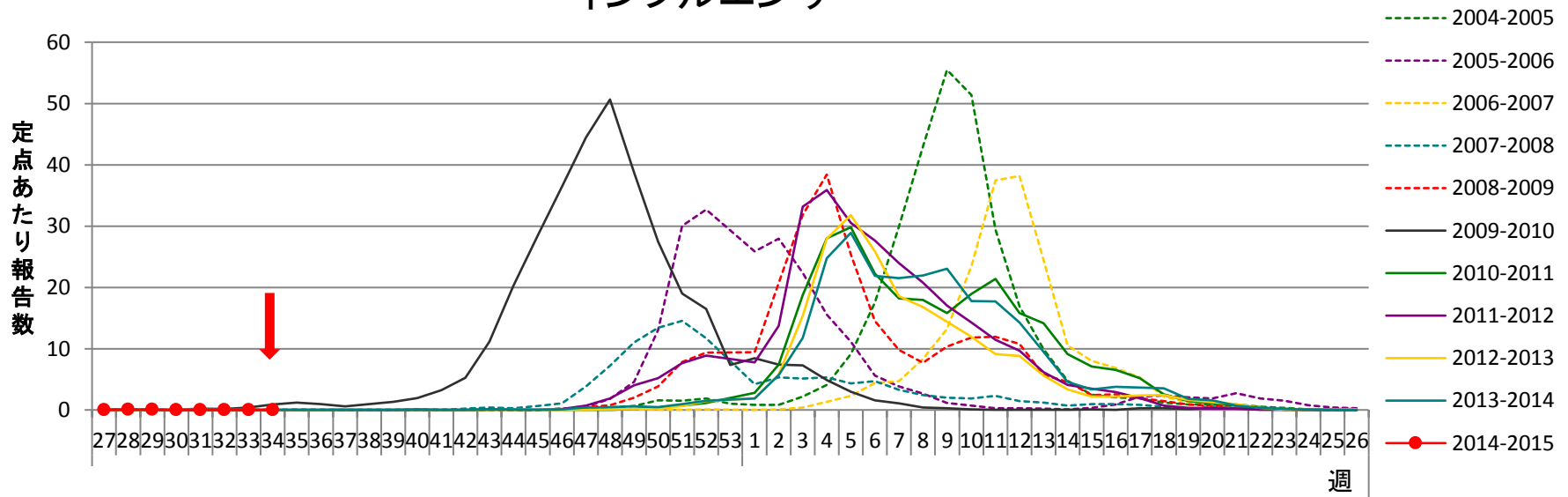
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

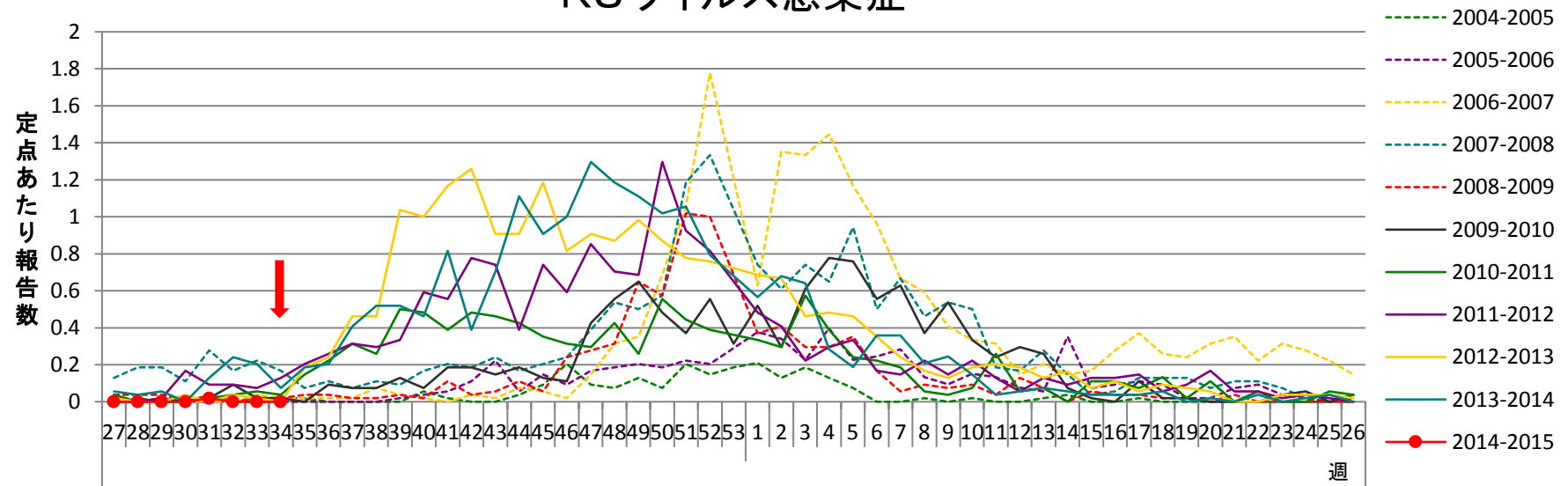
2014 年 34 週

分類	疾病名	2014		2013	疾病名	2014		2013	疾病名	2014		2013	
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年	
一類	エボラ出血熱	－	－	－	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	痘そう	－	－	－	
	南米出血熱	－	－	－	ベスト	－	－	－	マールブルグ病	－	－	－	
	ラッサ熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－	
二類	急性灰白髄炎	－	－	－	結核	3	231	358	ジフテリア	－	－	－	
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－		－	－	－	
三類	コレラ	－	－	－	細菌性赤痢	－	－	－	腸管出血性大腸菌感染症	1	55	87	
	腸チフス	－	－	1	パラチフス	－	－	－		－	－	－	
四類	E型肝炎	－	1	－	ウエストナイル熱	－	－	－	A型肝炎	－	6	5	
	エキノкокクス症	－	－	－	黄熱	－	－	－	オウム病	－	－	－	
	オムスク出血熱	－	－	－	回帰熱	－	－	－	キャサナル森林病	－	－	－	
	Q熱	－	－	－	狂犬病	－	－	－	コクシジオイデス症	－	－	－	
	サル痘	－	－	－	重症熱性血小板減少症候群	－	2	2	腎症候性出血熱	－	－	－	
	西部ウマ脳炎	－	－	－	ダニ媒介脳炎	－	－	－	炭疽	－	－	－	
	チクングニア熱	－	－	－	つつが虫病	－	1	－	デング熱	－	－	－	
	東部ウマ脳炎	－	－	－	鳥インフルエンザ	－	－	－	ニパウイルス感染症	－	－	－	
	日本脳炎	－	－	1	日本紅斑熱	1	2	2	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－	
	Bウイルス病	－	－	－	鼻疽	－	－	－	ブルセラ症	－	－	－	
	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－	発しんチフス	－	－	－	
	ボツリヌス症	－	－	－	マラリア	－	－	1	野兔病	－	－	－	
	ライム病	－	－	－	リッサウイルス感染症	－	－	－	リフトバレー熱	－	－	－	
	類鼻疽	－	－	－	レジオネラ症	－	19	24	レプトスピラ症	－	－	2	
	ロッキー山紅斑熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－	
	五類	アメーバ赤痢	－	6	20	ウイルス性肝炎*3	－	5	13	急性脳炎*4	－	8	5
		クリプトスポリジウム症	－	－	－	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	－	4	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	3	3
後天性免疫不全症候群		－	13	18	ジアルジア症	－	－	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	－	－	1	
侵襲性髄膜炎菌感染症		－	－	－	侵襲性肺炎球菌感染症	－	18	20	先天性風しん症候群	－	－	－	
梅毒		－	11	8	破傷風	－	－	4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	－	－	－	
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		－	1	1	風しん	－	2	76	麻しん	－	6	3	

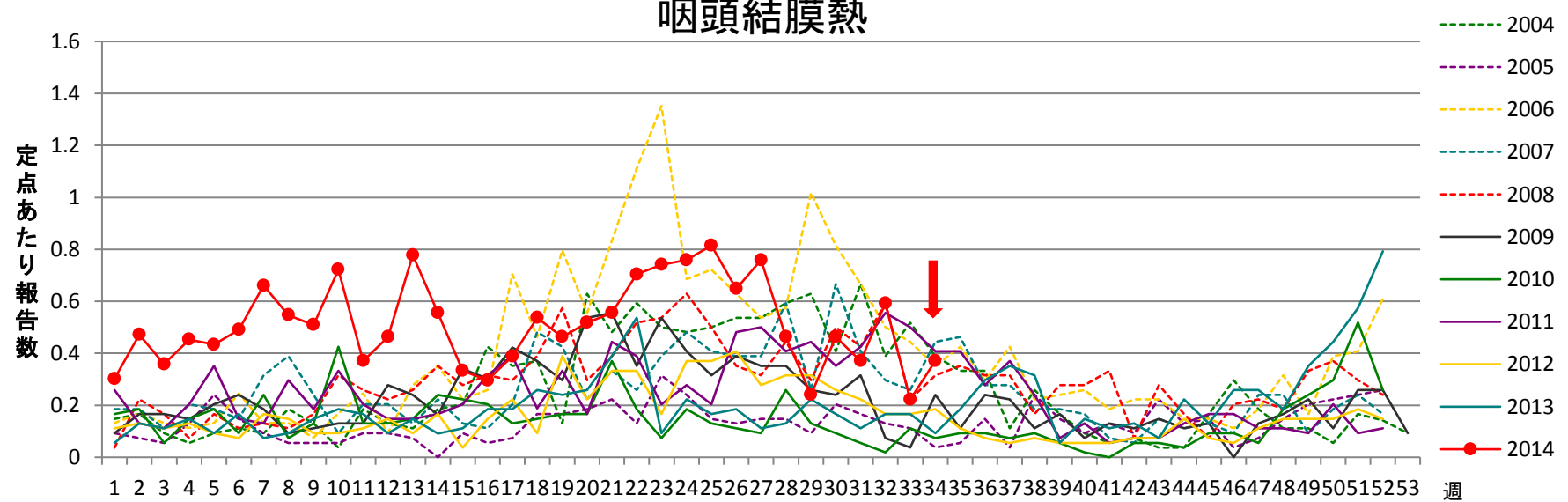
インフルエンザ



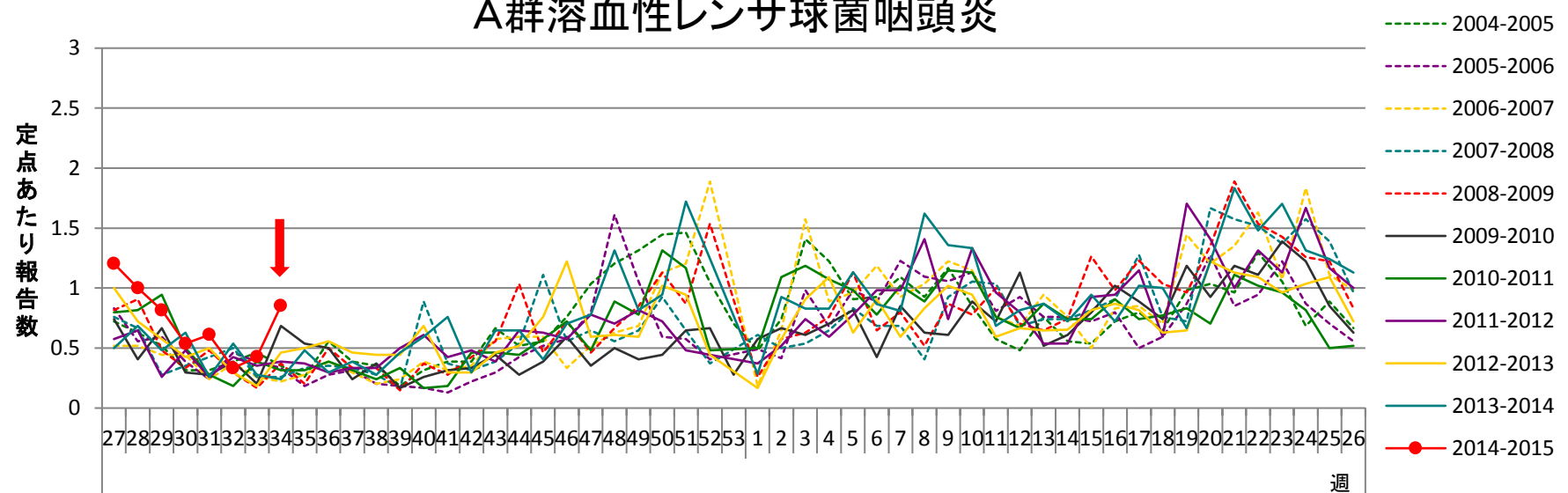
RSウイルス感染症



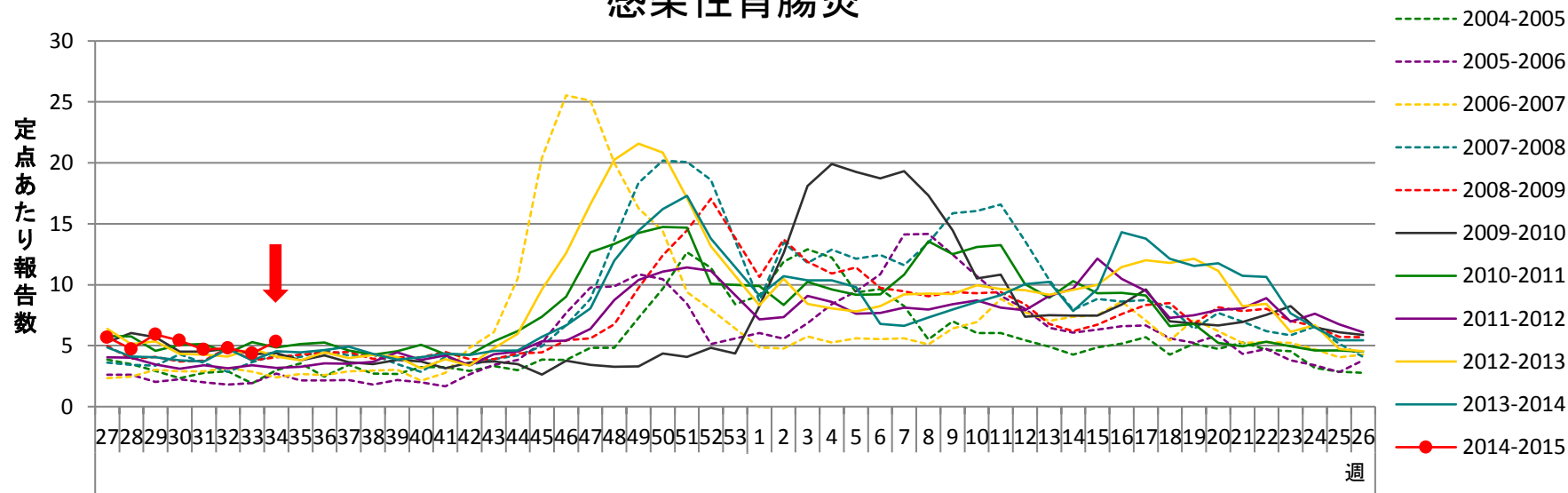
咽頭結膜熱



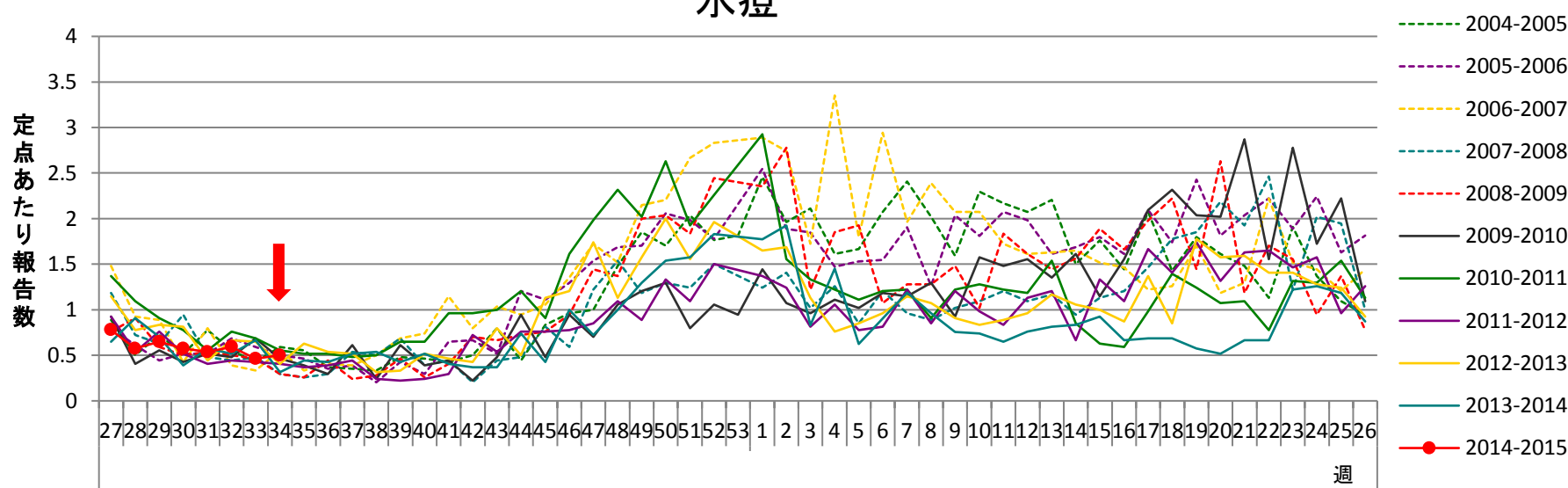
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



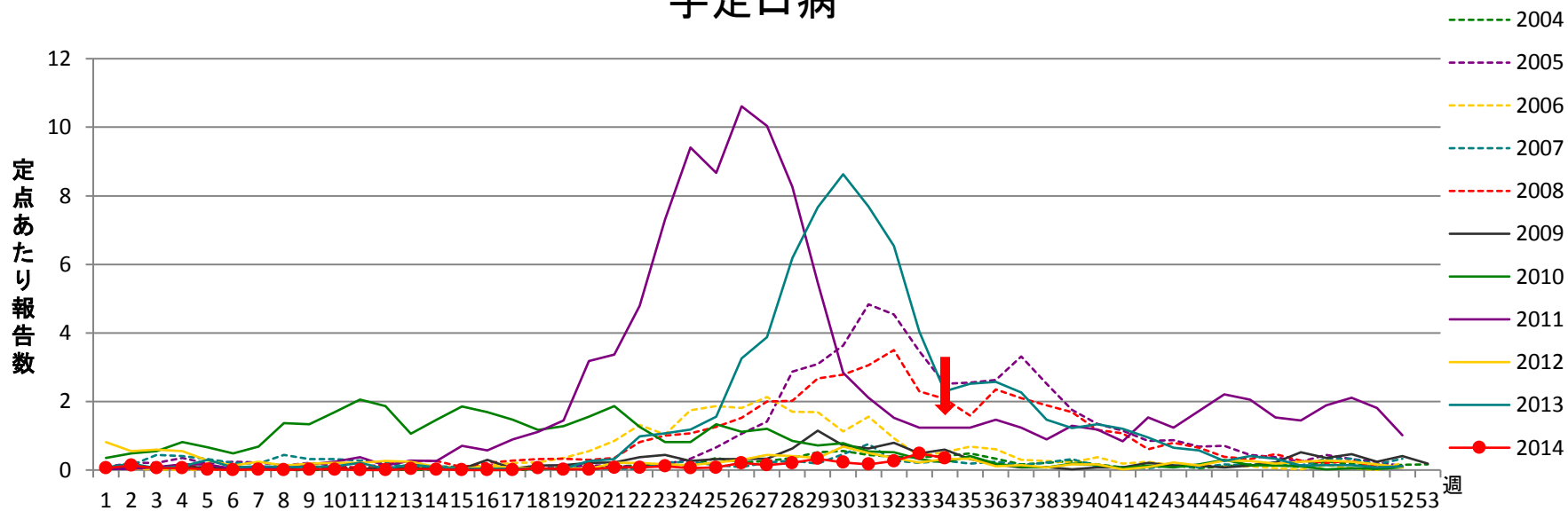
感染性胃腸炎



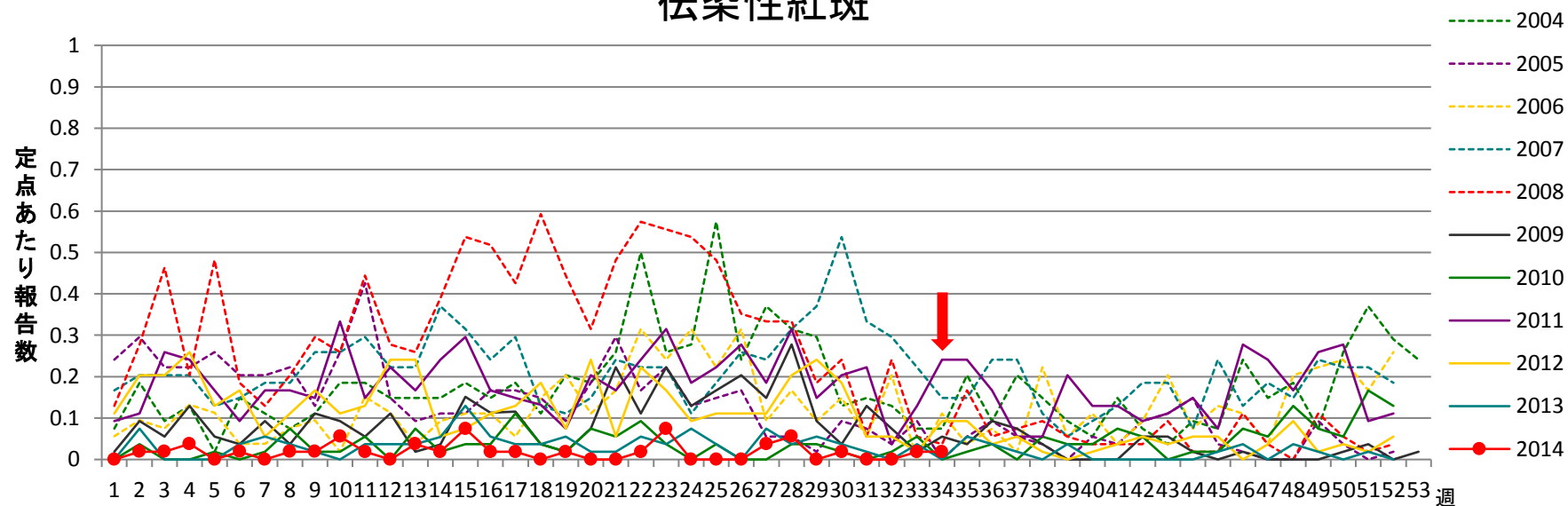
水痘



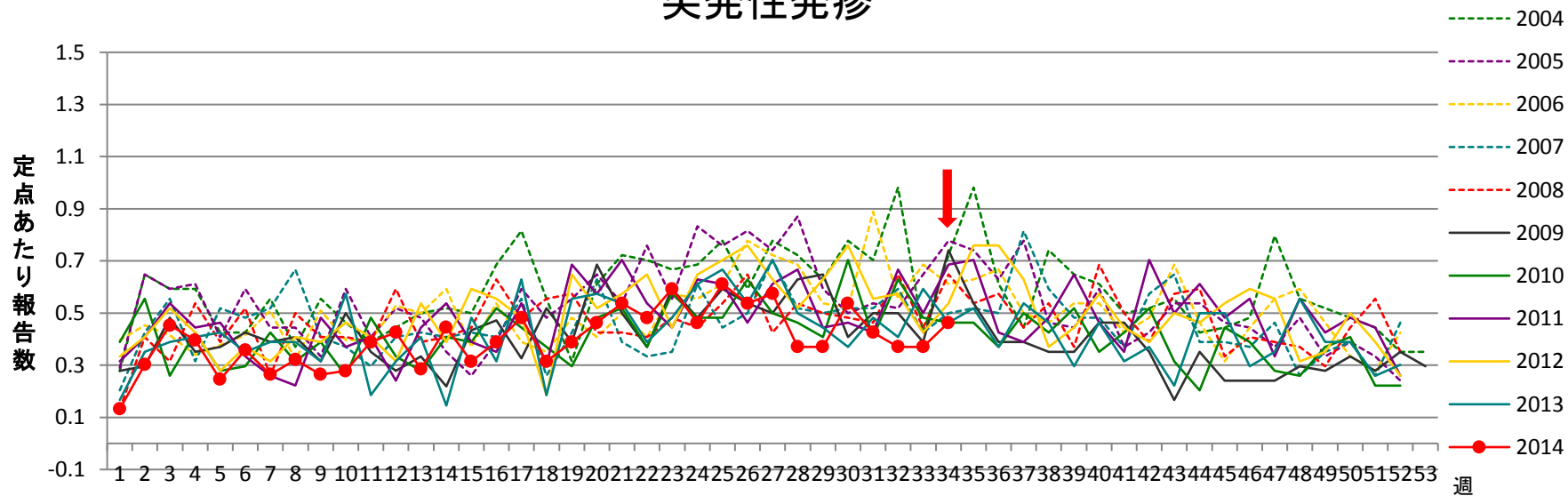
手足口病



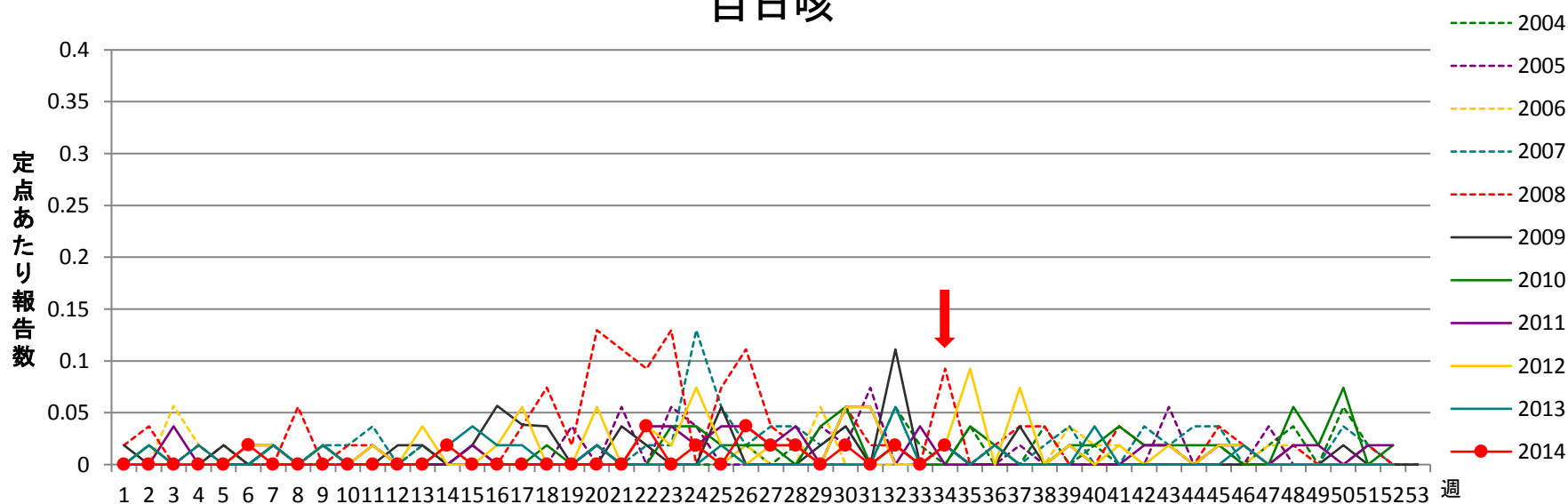
伝染性紅斑



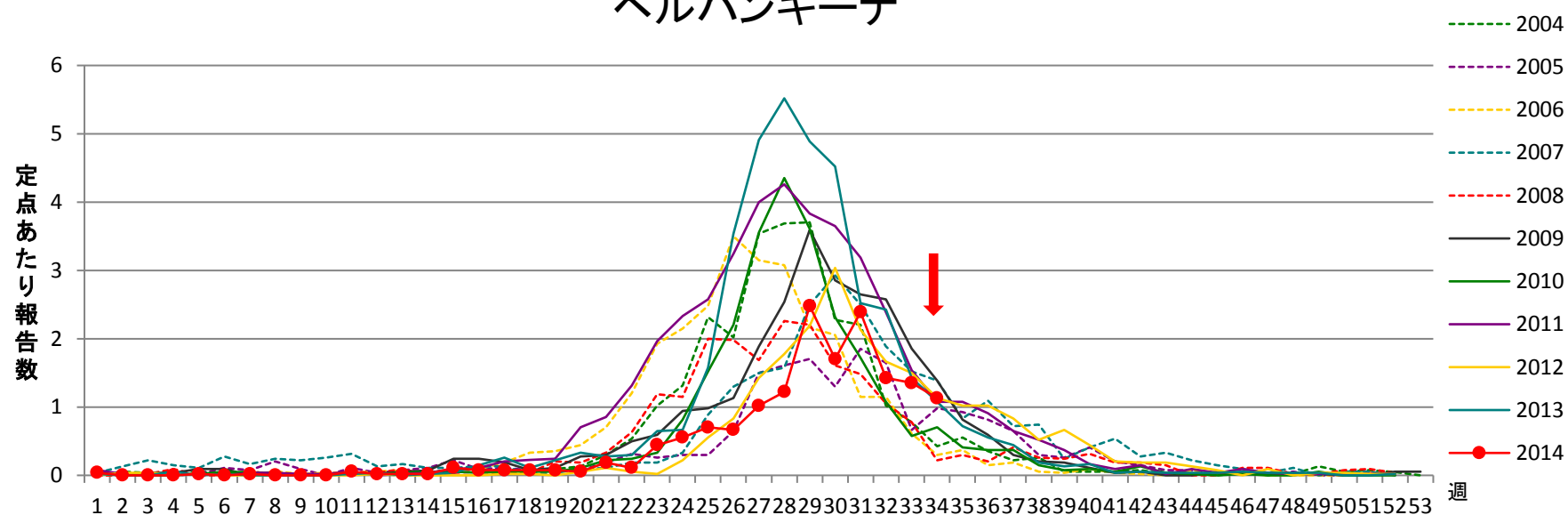
突発性発疹



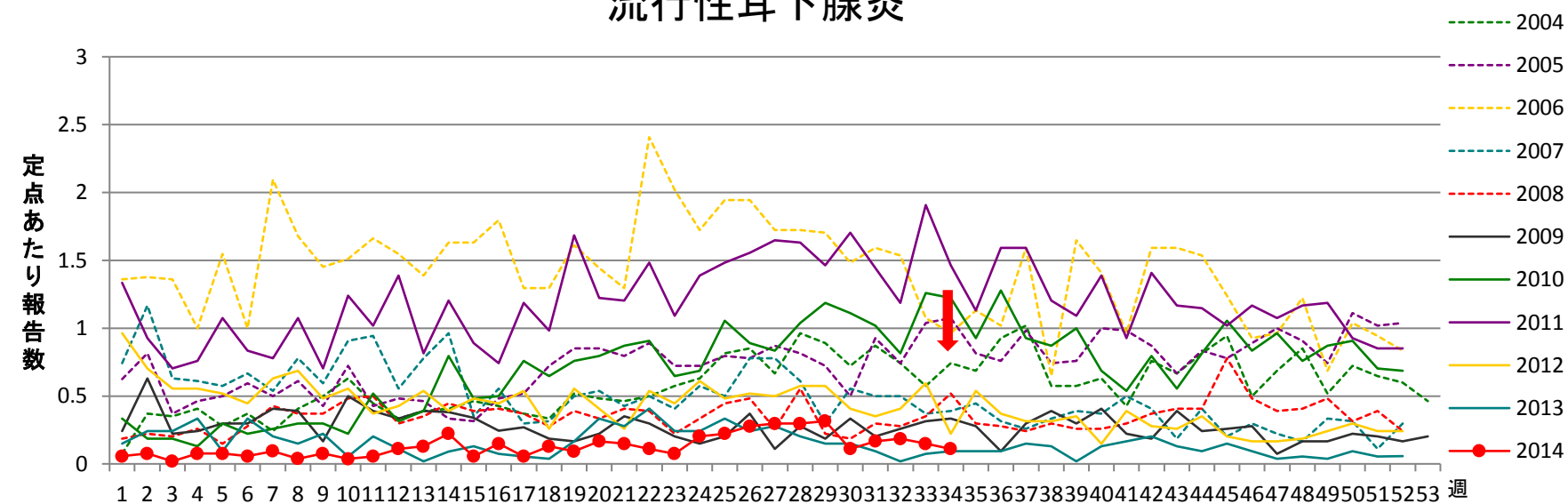
百日咳



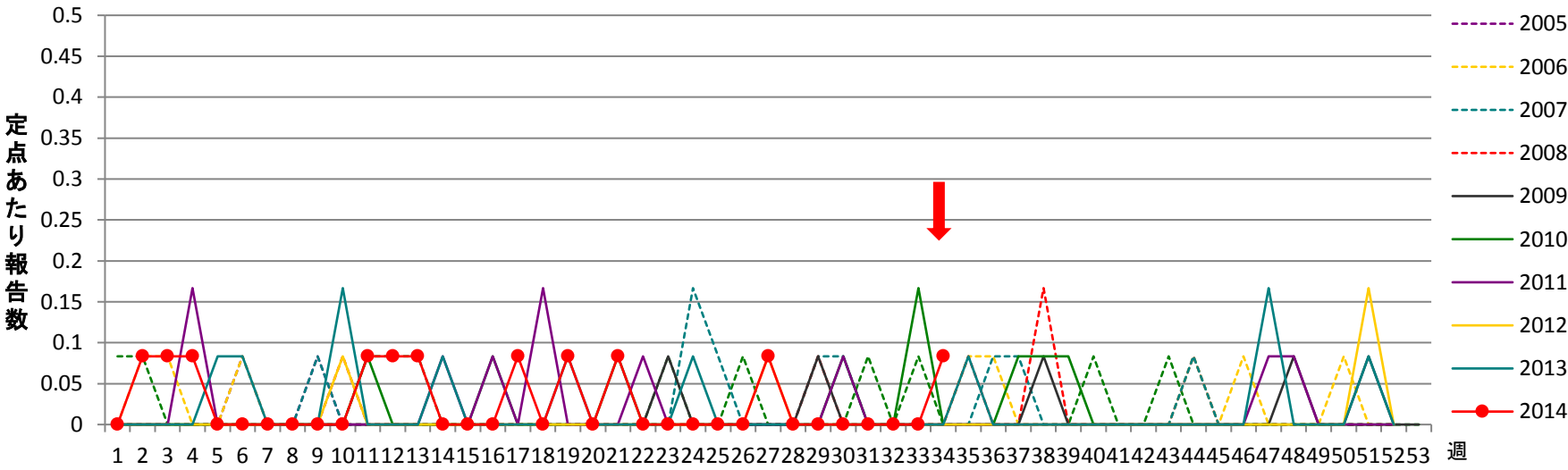
ヘルパンギーナ



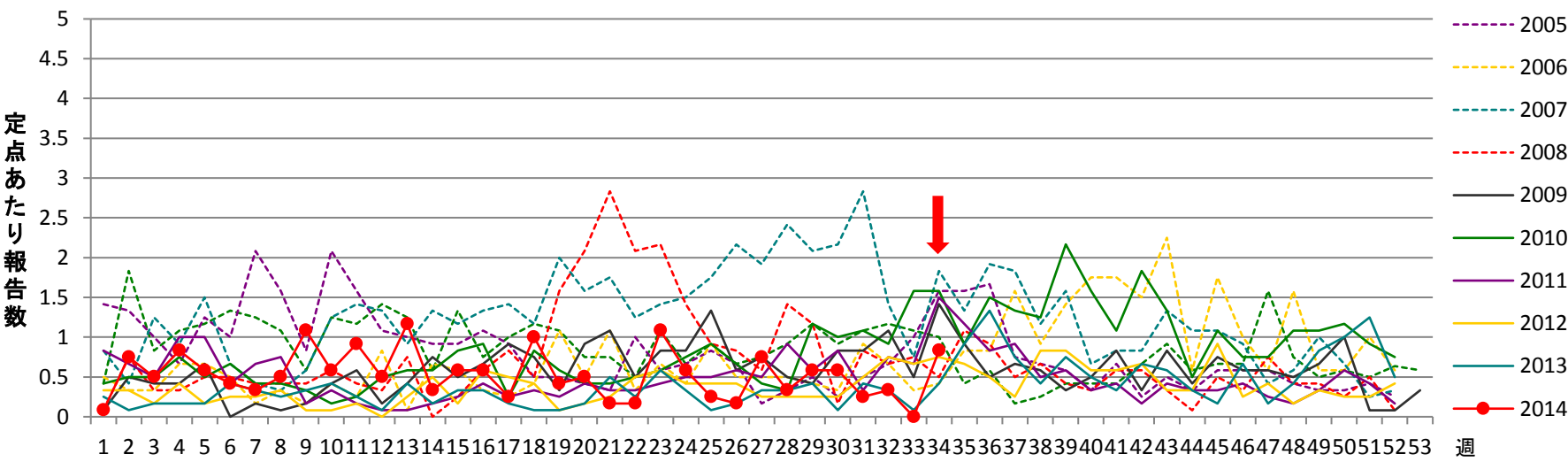
流行性耳下腺炎



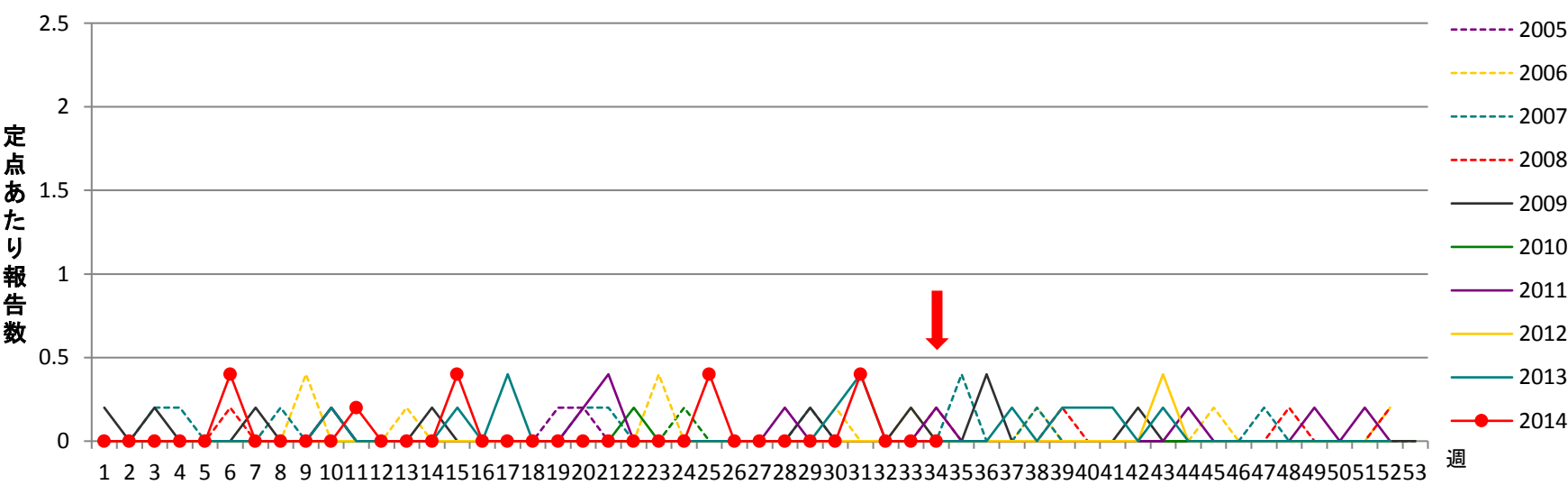
急性出血性結膜炎



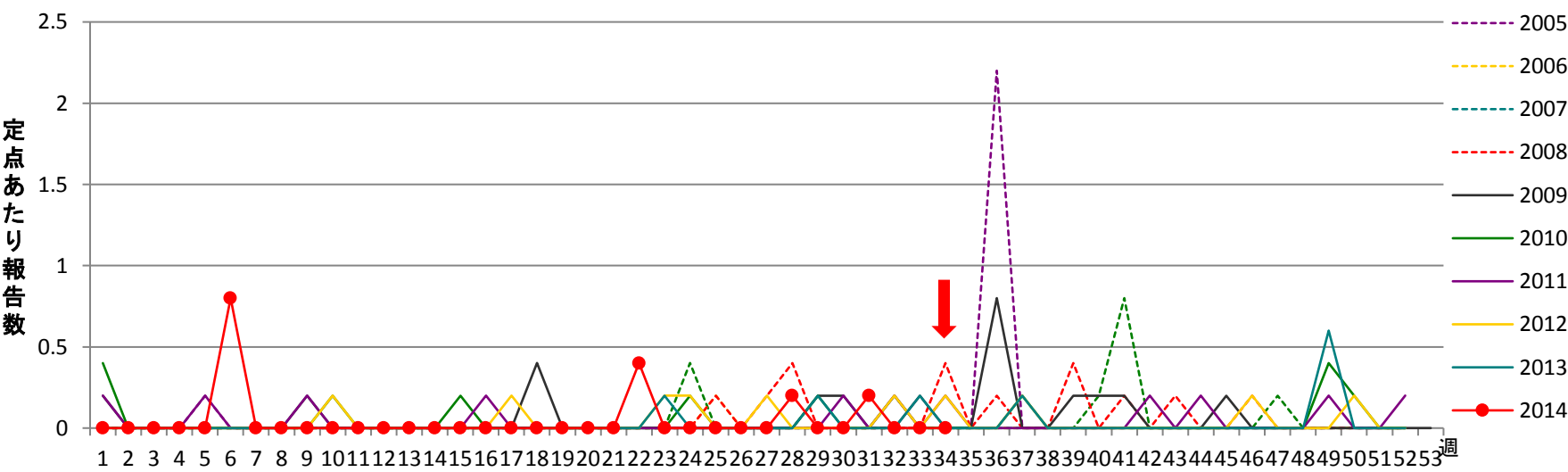
流行性角結膜炎



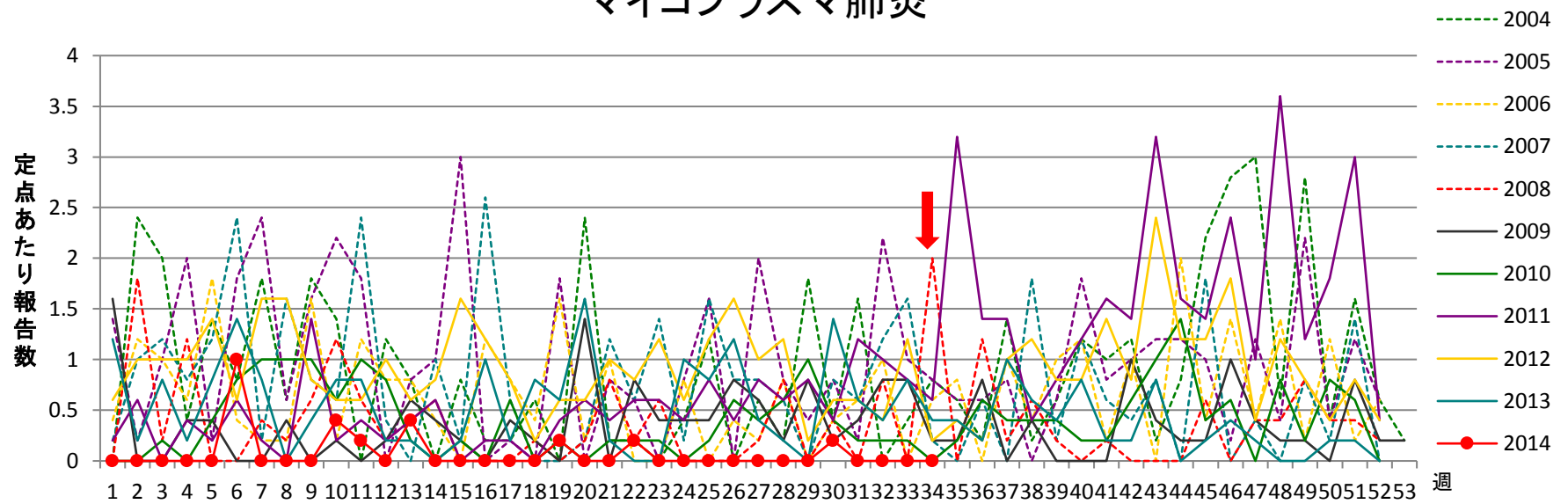
細菌性髄膜炎



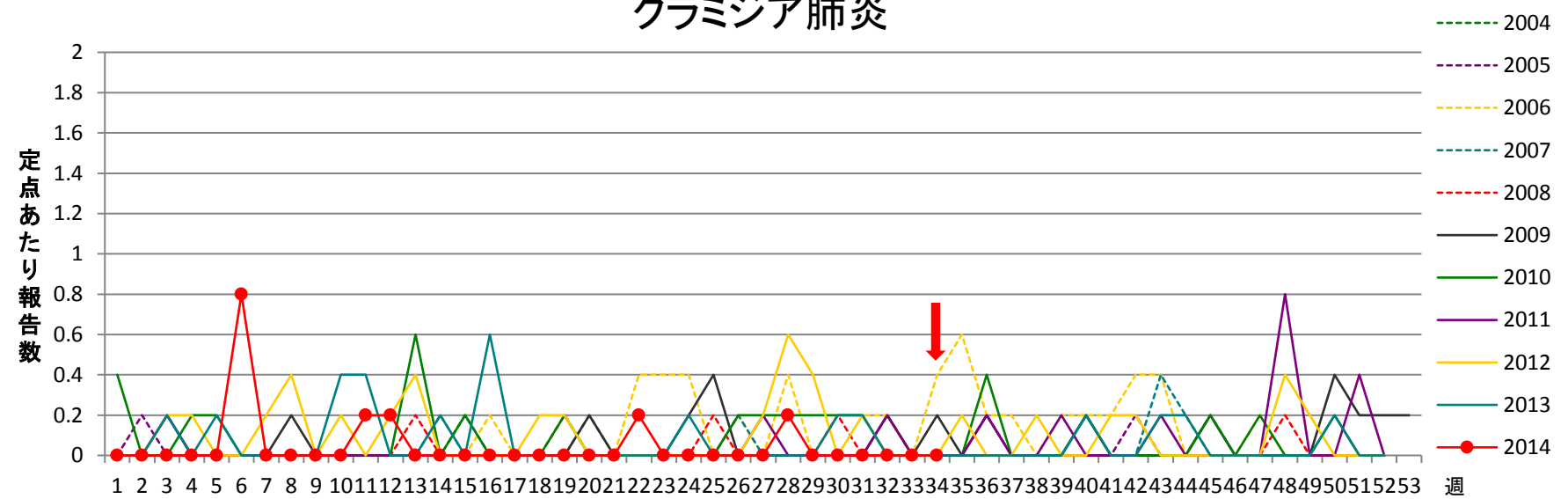
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

